

脳波で診る救命救急

意識障害を読み解くための脳波ガイドブック

Suzette M. LaRoche, Hiba Arif Haider ● 原著
吉野 相英 ● 訳B5・頁456
定価:15,400円(本体14,000円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05058-6

ハンス・ベルガーが初めて人の脳波記録に成功したのは1920年代で今からちょうど100年前のことであった(論文発表は1929年)。この成功の背景には、精神機能を測ることへの強い興味があった。ベルガーは脳波実用化の過程で、脳の温度や脳血流の測定にも力を注いだ。 α 波や β 波の命名もベルガーによる。

学生時代(1970年代)の実習で、脳波室の先生から脳波検査法の意味を習ったことを今でもよく覚えている。脳波測定の意義は2つで、1つは意識レベルがわかること、もう1つはてんかん診断ができること、と教わった。X線CTがようやく開発されたころであった。それから半世紀を経て脳波診断の意義は拡大し、神経救急診療の場面全般で大きな意義を持つようになった。これらの背景からNCSE(非けいれん性てんかん重積状態)が示され、最近では健忘・失語などてんかん性高次脳機能障害とも言える病態が特に注目されている。

本書はICU脳波モニタリングの定番書である『Handbook of ICU EEG Monitoring, Second Edition』を吉野相英先生(防衛医科大学精神科学)が全編翻訳なさったものである。全40章に用語についての付録がついて、全体で456ページの大部である。各章には必ず脳波所見が掲載され、in this chapter, キーポイント, 予備知識, 基礎, 今後の課題, 付録図, 最後に文献が20~30編という構成で非常に豪華である。本書の目玉, 特筆すべき点はベ

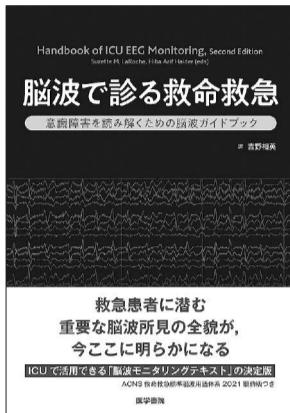
ルガーの時代には全く想像もできなかったに違いない長時間脳波モニタリングの基礎がわかりやすく示されていること、それに最近何かと話題になる定量脳波の可能性についてきちんと書かれていることだと思う。

この出版にあたって書評を私に依頼くださったのは吉野先生ご自身であり、謹んでこの依頼をお引き受けすることにした。吉野先生とは以前日本てんかん学会のシンポジウムで講演者としてご一緒したことがある。2019年神戸での第53回てんかん学会学術集会シンポジウムで、シンポジウムのテーマは「認知症とてんかん」というものであった。2人の講演の共通テーマはNCSEであった。てんかん性の高次脳機能障害は以前考えられていた以上に高頻度に発症し、一見認知症にも見えるが実はその多くはNCSEであり、その脳波所見と臨床病態の把握が特に重要であるということがそのシンポジウムで総括された。このシンポジウムがきっかけの1つになり、私は吉野先生の前著(監訳)『精神神経症候群を読み解く——精神科学と神経学のアートとサイエンス』(2020年, 医学書院)の書評も書いた。こちらの本も素晴らしい本で翻訳も良い。

これらの本は、てんかん・意識障害などの神経救急診療現場で働く臨床家、また神経生理学研究の立場の基礎研究者にも有用で、脳波診療の行方を照らす灯の1つとなることは確実である。1人でも多くの人に読んでいただきたいと心から思う。

これらの本は、てんかん・意識障害などの神経救急診療現場で働く臨床家、また神経生理学研究の立場の基礎研究者にも有用で、脳波診療の行方を照らす灯の1つとなることは確実である。1人でも多くの人に読んでいただきたいと心から思う。

● 評者 河村 満

奥沢病院名誉院長/
昭和大名教授・脳神経内科精神機能を測る
ICU脳波モニタリング

金原一郎記念医学医療振興財団

第74回認定証(第38回基礎医学医療研究助成金)贈呈式開催

金原一郎記念医学医療振興財団(理事長=上武大学長・澁谷正史氏)は、このほど「第38回基礎医学医療研究助成金」の交付対象者を選出(助成金額1775万円, 30人)。10月12日、医学書院(東京都文京区)にて第74回認定証贈呈式が開催された。

開催に際し、金原優同財団業務執行理事(医学書院代表取締役会長)が、医学書院の創業者・金原一郎の遺志を継ぎ、基礎医学研究への資金援助と人材育成への助力を目的として1986年に設立された同財団の背景を紹介。選出された交付対象者をたたえ、「助成金を研究活動に有効活用し、医学の進歩に貢献してほしい」と激励の言葉を述べた。次に、本助成金の選考委員長も務める前出の澁谷氏は、「日々研究を行っているが失敗することもあるが、その失敗を考察することで新たな研究テーマが見つかることがある。それこそが研究の醍醐味であり、今後ますます研究活動に励んでほしい」と述べ、祝辞とした。

続いて、交付対象者を代表し、中野正博氏(理化学研究所生命医科学研究センター訪問研究員・助成対象「関節リウマチのB細胞シングルセル解析に基づく自己抗体産生機序の解明」)があいさつした。氏は初期研修医時代、全身性エリテマトーデスの症状が重篤なため妊娠中絶せざるを得なかった同い年の患者を担当したことを契機にリウマチ膠原病科の専攻医となるも、病態解明が進んでいないため最適な治療が提供できない課題に直面。現在は研究者として、シングルセル解析などの免疫細胞遺伝子発現解析による自己免疫疾患の病態解明に取り組んでいる。「日々たゆまず努力して、必ず良い研究成果を上げたい」と抱負を語った。



● 写真 贈呈式には、30人の交付対象者のうち、東京近郊の6人が出席した。

坂の上のラパ肝・胆・膵[Web動画付]

腹腔鏡下手術が拓く肝胆膵外科のNEWスタンダード

本田 五郎 ● 編
大目 祐介, 本田 五郎 ● 著A4・頁376
定価:19,800円(本体18,000円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-04984-9

● 評者 遠藤 格

日本肝胆膵外科学会理事長/
横浜市大主任教授・消化器・腫瘍外科学

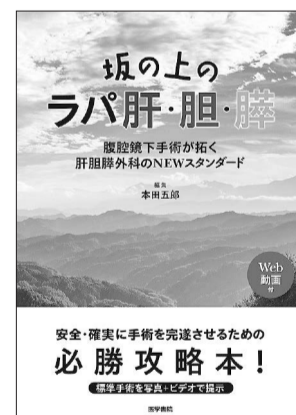
わが国の肝胆膵外科を牽引する若手のリーダーの一人である本田五郎先生とお弟子さんの大目祐介先生が共同執筆された本書は、本田先生が「現時点での腹腔鏡下肝胆膵外科手術の到達点」として出版されたものである。これは読まないわけにはいかないだろう。本書には、本田先生の開発したさまざまな有名術式・概念が網羅されている。例えば有名な「胆嚢摘出術におけるSS-inner layer」「肝静脈の股裂きを防止するCUSAの使い方」「caudate lobe-first approach」などである。

本書の特徴は「わかりやすい」ことに尽きるだろう。手術シェーマが好きの人にはたまらない素晴らしい図が数多く収載されている。Web動画のリンクまで用意されている。そのため、次は本田式でやってみようかな、と思わせる、そんな誘惑にあふれている。

また、随所にKnack & Pitfallがちりばめられている点も、宝探しのようで面白い。具体的に数か所列挙すると、「胆嚢全層摘出術の際の胆嚢板の処理」(p51)、「肝門近傍の地雷」(p54)、「前区域Glisson茎の首は長めに確保する」(p190)など非常に有益なポイントがちりばめられている。

また、Coffee BreakやDiscussionという名の「つぶやき」もある。「negative思考」(p90)、「ベッドサイド命」(p294)、「リンパ節郭清のエビデンス」(p330)などを読むと、彼の気骨あふれる人柄がよく理解できる。まさに本田五郎

の真骨頂である。そろそろ肝胆膵外科にも開腹を知らない若い世代が増えつつある。本書はこれから肝胆膵外科の坂道を登っていく若手外科医のバイブル的存在になるのではないだろうか。

魅力あふれる新世代の
バイブル的書籍医学書院IDの
登録はお済みですか?

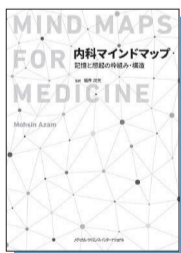
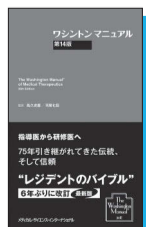
最新の医学界新聞がメルマガで届きます

医学書院ID 登録

新刊 「マインドマップ」を活用し、100を超える内科疾患を視覚的に学ぶ

内科マインドマップ
記憶と想起の枠組み・構造
Mind Maps for Medicine

▶記憶力と情報整理を高める学習効果があるとされるマインドマップの形式で内科疾患を視覚的に学べる書。100を超える疾患のマインドマップに、疾患の定義、病態生理、原因、臨床的特徴、検査、管理、合併症などの詳細を提示。また視覚的記憶の補助に不可欠な写真や図形を多数掲載。さらに語呂合わせの形式も追加され、マップ情報を補完。重要な項目については別途「NOTE」で解説。研修医や若手医師等の知識の修得を多面的にサポートする。

監訳: 福井次矢 東京医科大学茨城医療センター 病院長
定価6,930円(本体6,300円+税10%)
A4 頁318 色図58 写真98 2023年
ISBN978-4-8157-3083-3目次 第1章:循環器 第5章:内分泌
第2章:呼吸器 第6章:神経
第3章:消化器 第7章:リウマチ・膠原病
第4章:腎臓 第8章:感染症ワシントン
マニュアル 第14版The Washington Manual[®]
of Medical Therapeutics,
36th Edition監訳: 高久史磨・菊尾七臣
定価9,570円
(本体8,700円+税10%)
2021年
ISBN978-4-8157-3017-8内科ポケット
レファランス 第3版Pocket Medicine:
The Massachusetts General
Hospital Handbook of
Internal Medicine,
7th Edition日本語版監修: 福井次矢
定価4,620円
(本体4,200円+税10%)
2021年
ISBN978-4-8157-3013-0

教科書では学べない実臨床の知識を提供する、シリーズ第7弾

小児救命救急・
ICUピックアップ⑦ECMO

▶小児の救命救急・ICU領域における標準的な治療、最新の知見・エビデンスに基づく治療の選択肢を提示するシリーズ最新刊。小児重症患者管理に必須の技術となりつつあるが、安全に行うには習熟が必要なECMOに関し、その歴史から手技の基本、施行中の全身管理、合併症予防およびECMO搬送について解説。各筆者の豊富な経験を踏まえ、基本的な事項からアドバンスな事項までを網羅。小児科医、集中治療医、救急医をはじめ、当該領域に関わる医療従事者にも役立つ。

編集: 日本小児集中治療研究会
責任編集: 齊藤 修 東京都立小児総合医療センター 集中治療科定価6,160円(本体5,600円+税10%)
B5 頁384 図132・写真13 2023年
ISBN978-4-8157-3082-6